



プロジェクト名：生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）

活動: 衛生管理クラブによる生理の衛生管理、性教育、ジェンダー啓発の普及

(活動 2.2.1 生徒から生徒へ行う ジェンダー啓発)

※本レポートでは「Menstrual Hygiene Management (MHM)」を「月経時の衛生管理」と表記する。また、MHM Club のことを「月経衛生クラブ」と表記する。「月経衛生クラブ」とは、月経時の衛生管理・性教育・ジェンダー啓発活動を生徒たち自身で行うクラブ活動のことである。

日時と場所:

2018年5月5日 プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC)

2018年5月7日 聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校

2018年5月30日 ルワウナ初等学校

序論

男性及び女性の主任教員のサポートを受けながら、12名（女子8名、男子4名）で構成される3組の衛生管理クラブを本プロジェクトの対象校3校にて立ち上げた。このクラブの目的は、クラブメンバーが先頭に立って月経時の衛生管理・ジェンダー啓発・性教育に取り組み、生徒から生徒へ啓発活動していく事で、プロジェクトの持続可能性とオーナーシップ（主体性）を確保していく事である。前回、対象校3校の各クラブは、月経時の衛生管理、ジェンダー啓発、性と生殖に関する健康・権利のテーマを含む性教育についてトレーニングを受けた。そして今回、各クラブは各学校でジェンダー啓発に関する活動を実施した。その他のトピックである月経時の衛生管理と性教育については、二学期の終わりから三学期の始めの時期に実施される事となった。

トレーニングの目的

- ジェンダー啓発の普及
- 家庭や学校にあるジェンダー（不平等）/社会的問題に対応するスキルの向上

参加者

プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC) 男子 42名、女子 58名

聖ジョセフ・チバリンガ 初等学校 男子 151名、女子 116名

ルワウナ初等学校 男子 123名、女子 145名

活動内容

対象校 3 校の各クラブは、SORAK スタッフと教員（男性及び女性の主任教員）2 名と事前ミーティングを行った。また、他の生徒達の前で発表する内容を準備するようにトレーニングマニュアルが各クラブに提供された。

ルワウナ初等学校では教員に指名された最も活動に熱心な 3 名の生徒（女子 2 名、男子 1 名）がジェンダー啓発ワークショップのリーダーとなり、その他は補助の役割を担う事となった。プレシャス・チャイルド・ラーニング・センター(PCLC)では、選抜された 5 名にそれぞれ担当のトピックを与えられ、他のメンバーは質疑応答に答えるなど補佐をする役割となった。聖ジョセフ・チバリング初等学校では、他校と同じ様に、女子 2 名と男子 2 名がジェンダー啓発ワークショップのリーダーとなり、残りの生徒は補助や質疑対応をする事となった。

トレーニングで扱う以下のトピックについて、学校の教員と SORAK プログラムスタッフが衛生管理クラブに指導と補助を行った。

- 「ジェンダー」と「性」の違い
各クラブでは「ジェンダー」と「性」の違いについて発表した。例えば、「ジェンダー」は生物学的に決定された性差であり、「性」は生まれ持って与えられたものである。
- ジェンダーの特性の例
クラブの参加者は、ジェンダーの特性について幾つか例を挙げた。例えば、女性は料理、食器洗い、掃除など家の中での家事を担当する。これら家事については、子供たち、特に女子に手伝ってもらえる事もある。一方男性は、家族のために働いて収入を得ることを期待される。また、男子は女子に比べて数学が得意で、人情豊かな女子は美術の科目等を得意とする。
- ジェンダーの役割と責任の違い
クラブメンバーは、男性/女性、男子/女子のそれぞれが担うジェンダーの役割について話し合った。学校では、女子は休み時間に食器洗いや教室の掃除ができる。一方で、男子はグラウンドの雑草刈りや水汲みに行けるとの意見があった。家では、女子は小さい兄弟の面倒を見たり食器洗い、男子は水汲みと庭の手入れをする役割があると話し合った。
- 生徒達のチェンジエージェント¹としての役割
全クラブで挙げられたチェンジエージェントの役割は、既存のジェンダーの役割の啓発と、ジェンダー（性差）のため権利の迫害（強姦など）が起こった時などにしかるべき責任者に報告をする責任があること。
- 教師/教育者のチェンジエージェントとしての役割
教員/教育者は、教室やコミュニティ内でジェンダー差別に繋がるような言葉の使い方に注意しなければならない。クラブのメンバーからは「女子は役に立たない (big girl for

¹チェンジエージェントとは、コミュニティ内で知識や情報を広め、変革を起こす模範的なリーダーの役割。

nothing)」「年相応の振る舞いをしなさい(acting your age)」という表現を使う教師がいるとの報告があったが、この様な表現は生徒特に女子を傷つけてしまう。



左：ルワウナ初等学校での事前ミーティング。トレーニングの準備をしている。

右：衛生管理クラブの一員であるアクゴンゼ・ジョゼリン(Akugonze Joselyn)がトレーニングを実施している。



左：ルワウナ初等学校での発表内容から、生徒へ問題を出すSORAKプログラムスタッフ。

右：プレシヤス・チャイルド・ラーニング・センターで発表内容の準備。



左：クラブのメンバーによりジェンダーと性の違いについて説明。
右：SORAK のプログラムスタッフがトレーニングから学んだ事を板書している。



左：聖ジョセフ・チバリング 初等学校のクラブがジェンダー啓発トレーニングの準備をしている。
右：ジェンダー啓発トレーニングに参加する 聖ジョセフ・チバリング 初等学校の生徒たち。

成果

今回の活動では、下記の成果があった。

- 啓発トレーニングの前には認識できていなかったが、今回の活動を通して生徒達はジェンダーと性の違いを認識できるようになった。クラブのファシリテーターの子ども達は、性は男女の生物学的特性であるが、ジェンダーは社会や文化における男女の役割と責任の違いに過ぎないという事をはっきり話せていた。

- トレーニングが終わる頃には、生徒達はジェンダーによって異なる役割や責任について自由に述べる事ができる様になった。また、女子生徒が家や学校で担う役割をはっきり示す事ができた。例えば女子が学校でできる活動としては、食器洗い、グラウンドや教室の清掃が挙げられ、一方男子はグラウンドの雑草刈りや水汲みができる。また家庭内では、女子は両親/保護者からの指導を受けて幼い兄弟（赤ちゃん）の面倒をみたり、食器洗いをする。一方で男子は、庭の手入れ、水汲み、薪木収集などの役割が挙げられた。
- 衛生管理クラブのメンバーは他の生徒達に対して、チェンジエージェントとして彼らの役割について説明した。また女子生徒は、性的暴力に対抗する推進者・主張者として行動する事が求められた。
- クラブの参加者が教員と生徒の前で話し合った様に、ジェンダーへ配慮した教育環境を確保する役割と責任について、教員に対しても再認識する事が求められた。今回の議論で話し合われたのは、ジェンダーに配慮する事の大切さ、そして教員が使う表現（『役に立たない女の子 (big girl for nothing)』『年相応の振る舞いをしなさい(acting your age)』等）や生徒につけるあだ名がジェンダー差別に繋がるため配慮が必要であるという事であった。

ジェンダーに関する課題と提案

ジェンダー差別は根強く残っており、例えば親の中には女子には教育が必要ないと考え、学校での必需品や生理用品も与えない事もある。よって月経に関する対応をしないなど、教育環境が悪化し、女子生徒が学校に通えなくなる原因となる。解決策としては、本プロジェクトの対象校3校に、生徒・教員・保護者・政策責任者から成るジェンダー差別に取り組む委員会を結成することである。さらには、学校での保護会の際に、県の教育部門（District Education Departments）が子ども達の権利と権利侵害の被害について保護者と話すべきである。これら提案は「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業（ウガンダ共和国）」プロジェクトへ効果的な影響をもたらす事になると考える。